品川駅南地区（品川浦周辺地区）

2021 年３月発行

まちづくりニュース　第2号

品川駅南地区ではまちづくりを進めています！

（１）品川区のまちづくり計画における位置づけ

品川駅南地区では、複合市街地の形成が進む隣接地域との連携・強化を目指すとともに、国内外の来街者を迎え入れる品川駅の南の玄関口となる拠点形成を目指したまちづくりを進めるため、「広域活性化拠点」として位置付けられています。

品川駅南地区におけるまちづくりの動き

過去のアンケート結果の詳細はこちら
（品川駅南地域まちづくりビジョン HP 内）
TOP>環境・まちづくり>都市整備>プロジェクト
https://www.city.shinagawa.tokyo.jp/

＜発　行＞

品川区　都市環境部
都市開発課　立体化担当
〒140-8715　東京都品川区広町 2-1-36
（TEL）０３－５７４２－６９６１　（FAX）０３－５７４２－６９４２

（2）京浜急行本線連続立体交差事業に伴う駅前広場整備を実施

京浜急行本線北品川駅の駅前広場（品川区画街路第７号線）については、令和２年４月１日に事業が認可され、京浜急行本線鉄道高架化事業と併せて整備を進めてまいります。

駅前広場は、まちづくりや交通の課題の解消に向けて、無電柱化による防災性の向上、ユニバーサルデザインにも配慮しつつ、次の方針により整備します。

【取付道路部分】
- 周辺道路から北品川駅の駅前広場への取付道路※の整備
  ※北側から南の駅前広場に向う一方通行の道路（黄色）

【駅前広場部分】
- 駅東側：地域の玄関口にふさわしい駅前空間として、旧東海道の景観に配慮したイベント等も可能な歩行者中心の広場整備
- 駅改札前：駅利用者にとって、ゆとりある溜まり空間の整備
- 駅西側：タクシーやお身体が不自由な方が利用する車両等の乗降場を配置し、交通結節機能を強化。また、朝夕のピーク時の混雑状況を踏まえ、歩行者回遊性の機能を強化

（3）将来の品川駅南地区のまちづくりの検討を目的した意見交換会を実施

品川駅南地区の地域まちづくりの現状、課題及び方向性（全体・街区別）に対する意識の向上や意見集約を図るため、関係町会及び品川駅南地域の未来を創る推進協議会を対象とし、令和元年度から意見交換会を開催しています。主な意見は以下の通りです。

区分	意見（要約）
全般及び各街区のまちづくり	➢ 今後、陸海空の交通の拠点となり、“国際都市品川区”となっていく中で、受入体制や癒しの場、ビジネスの場、遊びの場を想定すると、滞在型の訪問者が多くなるのではないか。天王洲と上手くリンクしながら、バランスのとれたまちづくりが必要となる。 ➢ かつては漁師町で、屋形船で生計を立てていることから、現状のままで良いという意見もあるが、まちが良くなることを理解してもらえれば、再開発にも賛同が得られる。 ➢ 南街区は防災と水辺環境がキーワードになる。特に、住宅が密集していることから、住民から防災に関する意見が多くあると思う。 ➢ 再開発は何年かかるか分からないため、広い年代の意見も必要である。 ➢ 集客の観点から、品川駅周辺はホテル街、北品川はゲストハウス的な考えができるのでは。旅籠、宿屋など。インバウンドや日本人の方も泊まれる施設も良い。
連続立体交差事業	➢ 再開発事業等で北品川駅の乗降客も増えるため、降車の方の捌き方が重要である。 ➢ 高架下空間の利用や、高架下を抜けた道路の使い道を考える必要がある。 ➢ 高架下利用で店が整備されるのであれば、駅名を東海道品川宿に変更しても良いのでは。 ➢ 歴史が分かる博物館を一緒に整備するとともに、土産屋を整備するのも面白い。
駅前広場	➢ 将来的に、お祭り関係全般を駅前広場中心に実施し、北品川が動くぐらいの取組を実施したい。 ➢ 新橋駅前の SL 広場など、イベントと連携した駅前広場づくりが好ましい。 ➢ 駅前広場の機能を保ちつつ、マルシェやフリーマーケットが開けるスペースがあれば良い。 ➢ アスファルトではなく、石畳のイメージが良い。東京駅駅前の石畳は歩きやすい。

（4）今後の予定

品川駅南地区のまちづくりは、意見交換会などで得られた皆様が考える将来像やまちへの思いを踏まえて進めていくものです。品川区では、地域の方々と意見交換を行いながら、住民の意向を汲んだまちづくりを推進していきます。

本紙へのご意見、今後のまちづくりへの思いなど、ぜひ皆様の声をお聞かせください。